

「イノベーション探究Ⅰ」～地域再発見プログラム～ 第2回

1. 実施日

令和4年4月21日（木）6限

2. 場所

HR 教室（331 教室・332 教室）

3. 対象

グローバル科1年生（6・7組）

4. 講師

鳥羽高等学校 教諭 6組 ミューリニコラス 矢野 和久
7組 戸田 雄一郎 佐々木 啓成

5. 内容

（1）探究マインドについて

探究活動には「教えてもらう・させられる」という受動マインドからの脱却が必要である。
自分の意見を出し、他者の意見も聞き、協働してゴールに向かうことが探究マインドである。

（2）探究活動の流れ

1. 研究テーマを決定する
2. 問いを立てる [リサーチクエスション]
3. リサーチクエスションを解明するための調査内容を決定する
4. 調査方法を決定する
5. 調査を実施する
6. 結論を考察し、まとめる
7. 研究内容を発表する

（3）問いを立てる

信号機の写真を見せて、できるだけ多くの問いを立てる。

※必ず全員が発言する。他者の意見を評価しない。答えを出さない。

- なぜ、青・黄・赤なのか？
- なぜ、青・黄・赤の順番なのか？

（4）問いの深まり・課題の発見

- もっと見やすい色はないのか？
- 信号機ではない仕組みはないのか？

（5）グループ発表

6. 学び

- （1）探究活動で必要となる思考や態度について学ぶ。
- （2）探究活動の流れを理解する。
- （3）あるテーマから問いを立てる体験をする。
- （4）立てた問いを深めて、課題の発見をする。

7. 次回への課題

ワークシートの中で、「問いを立てる」活動で使用するメモ欄と「課題の発見」活動で使用するメモ欄をそれぞれ縦に配置したが、両者の関連を明確にするには、横並びで配置すべきであった。

8. 授業の振り返り

「問いを立てる」活動では、グループ内で活発に問いのアイデアが出た。第2回目の授業ではあったが、グループ内での役割分担（司会、書記、発表者）を決めたのもうまく機能したし、全員が発言するや、他者の意見を評価しないなどのルール設定をしたのもよかった。グループで出し合った問いをさらに深掘りし、課題の発見をする活動でも、多角的な視点から問いを作ることができた。